
EDIT [行番号] ;

機能 :

EDIT は、TSP コマンドの引数の修正を行うための簡単なエディタです。DOS/Win TSP では矢印キーを用いた編集、Windows では Through the Looking Glass を用いる方が便利です。

使用法 :

このコマンドでは引数は TSP 行番号の一つだけです。この行番号を省略すると、EDIT は前の行の修正をするかどうか聞いてきます。このコマンドは一般にあるプロシジャを再実行する前に、誤字を修正したり、系列リストを修正したり、等.. のために使われます。RETRY は EDIT と同じですが、編集が終わると修正されたコマンドが自動的に実行されます。また、EDIT は、RETRY とは違って、コレクトモードで（その実行は省略されない）特別の場合として扱われます。

エディタはまず最初に修正したいコマンドをエコーし、それから促進記号">>"を出します。応答はエディットコマンドに続けて正しい引数を付けます。エディットコマンドのユニークな省略型（1文字を含む）も可能です。1文字を置き換えたい場合でも、完全な引数が必要です。1回のエディットで一つの修正だけしかできません。促進記号は EXIT コマンドあるいはキャリッジリターンが応答として与えられるまで続けて出されます。

引数について :

TSP は、(データ以外の) タイプした全てのものを「引数」の文に分解します。各系列あるいは変数名は引数であり、同様にオペレータです。ステートメント区切り記号(セミコロン)と項目分離子(コンマやブランク)は引数とは考えません。

この例では10個の引数があります。

```

      GENR  GNPN = GNP / ( DELTA + R ) ;
引数      1      2 3 4 5 6 7 8 9 10

```

エディットコマンドとその引数は次の通りです :

EXIT

エディット終了(引数なし)。キャリッジリターンも EXIT と見なされます。

DELETE arg n

コマンドの n 個の「arg」を削除します。

REPLACE arg1 arg2 n

コマンドの n 個の「arg1」を「arg2」に置き換えます。

INSERT arg1 arg2 n

コマンドの n 個の「arg2」の後に「arg1」を挿入します。引数の一つしか与えない場合は、コマンドの後に挿入されます。

注 :「n」は省略した場合は常に 1 と仮定されます。

制約 :

1. 添字：2重添え字,あるいはデータに添え字があるとうまくエディット出来ません.
2. 括弧：エディターは,ラグ,リード,それに指示した括弧の前にある添え字があるコマンドでは,特定の括弧をうまく見つけられない場合があります.

例：

よく行いたい修正の一つの型は,(特に長いコマンドの場合)全部をタイプし直さずにコマンドのオプションリストを変更することです. 単純な例として, 静学予測をダイナミック予測にどの様に変更するか, また同時にプリントとプロットも行うようにするものです.

```
5? FORCST (STATIC,DEPVAR = I) IFIT ;
    < プリントオプションはオフだからアウトプットはない >
6? EDIT 5
    >> INS PRINT
    >> REP STATIC DYNAMIC
    >> EX
5. FORCST (PRINT,DYNAMIC,DEPVAR = I) IFIT ;
```

この場合, 修正されたコマンドの実行は指示しない限り行われません.

もう一つのよくある修正は誤字の修正です. 例えば, もし第10行目でタイプエラーがあり, それを修正したい場合, 次のようにするとよいでしょう.

```
10? INT DP,DP1,LGNP,TIME,C INVR C,G,LM,TIME ;
    < プロシジャー INST のスペルに誤りがあるのでエラーメッセージ >
11? EDIT 10
    >> REPLACE INT INST 1
    >> EXIT
10. INST DP,DP1,LGNP,TIME,C INVR C,G,LM,TIME ;
12? EXEC 10
10. INST DP,DP1,LGNP,TIME,C INVR C,G,LM,TIME ;
```

< INST コマンドのアウトプット >

この例をもっと簡単にタイプする方法がいくつかあります. まず第一に, コマンドは短く省略することができます. INTはINSTの省略型ではないことに気を付けて下さい(基本ルールを参照して下さい). 第2に, n=1 はREPLACE コマンドの既定値で, EXIT コマンドに対するキャリッジリターンと同じなので省くことができます. 又, 10行は前のコマンドなのでエディットコマンドから省くことができます. 最後に, 11と12のステートメントはEDITをRETRYに置き換えて一緒にすることができます. 10行のエラーを考えると, 次のように修正するといいいでしょう

```
11? RET
    >> R INT INST
    >>
10. INST DP,DP1,LGNP,TIME,C INVR C,G,LM,TIME ;
```

< INST コマンドのアウトプット >